

会員アンケートの集計結果報告

本会事業の運営は会員ならびに関係者各位のご支援、ご協力を得て安定した基盤の上に順調な推移を遂げておりますが、事業の推進に当っては適当な時期に見直しを行ない、問題点の摘出とその対策を講ずることが必要であります。

昭和47年には協会事業全般に亘って会員各位のご意見一鉄と鋼第60年(昭和49年第3号N41参照一を伺いましたが、今回は諸事業のうち特に会員の学会活動に最も密接な会誌「鉄と鋼」と「講演大会」に焦点を絞り、昭和57年11月に一万余名の会員から1876名を

無作為抽出しアンケートを実施いたしました。

アンケートは3部門に分れ、1. あなたは(回答者自身に関するもの)、2. 鉄と鋼、3. 講演大会で計23問を設けました。アンケートの対象会員数は1876名、回答者数1106名で59%の回答率となりました。ご回答を通じて総体的には会誌「鉄と鋼」と「講演大会」の両事業の運営に対して支持して頂いているものと解されますが、このデータならびにご意見を基に今後十分に検討し運営の参考にしたいと存じます。

1. アンケート結果

1) あなたは

| | |
|---------------|---|
| 問1 〔1104〕 | あなたは次のどれに該当しますか。1つ選んで下さい。 ①名誉会員(0.1) ②賛助会員(0.3) ③正会員(96.6) ④学生会員(3.1) |
| 問2 〔1100〕 | あなたは次のどの支部に所属していますか。1つ選んで下さい。 ①北海道(3.0) ②東北(3.6) ③東海(8.7) ④北陸(2.8) ⑤関西(23.5) ⑥中国四国(10.6) ⑦九州(8.6) 関東地方在住(39.0) |
| 問3 〔1103〕 | あなたの最終出身学科はどれに当りますか。1つ選んで下さい。 ①冶金・金属系(60.3) ②機械系(16.3) ③電気・電子系(3.1) ④化学・応化系(10.6) ⑤計測・制御系(0.7) ⑥物理・応物系(4.7) ⑦その他(4.3) |
| 問4 〔1103〕 | あなたの現在の職務は次のどれに当りますか。1つ選んで下さい。 ①現場部門(18.8) ②研究部門(33.0) ③管理・その他部門(29.9) ④教職者(8.7) ⑤学生(2.9) ⑥その他(6.7) |
| 問5 〔1102〕 | あなたの最も専門としている分野は次のどれに当りますか。1つ選んで下さい。 ①原料処理(4.2) ②製鉄(8.0) ③製鋼(16.5) ④塑性加工(9.3) ⑤ casting(4.9) ⑥材料(23.0) ⑦熱処理(3.7) ⑧表面処理(3.8) ⑨分析(2.3) ⑩溶接(3.5) ⑪計測(2.3) ⑫エネルギー(含動力)(1.6) ⑬設備(3.6) ⑭品質管理(3.5) ⑮その他(9.8) |
| 問6 〔1104〕 | あなたは次のどの年代に当りますか。1つ選んで下さい。 ①30歳以下(14.9) ②31~40歳(34.2) ③41~50歳(27.3) ④51~60歳(17.8) ⑤61歳以上(5.7) |
| 問7 〔1085〕 | あなたは他の学協会の会員になつていますか。次の項目から幾つでも該当するものを選んで下さい。 ①日本金属学会(27.7) ②日本機械学会(7.5) ③溶接学会(6.3) ④日本塑性加工学会(8.8) ⑤日本材料学会(3.8) ⑥その他(34.7) ⑦他の学協会には入会していない(40.3) |
| 問8 〔1104〕 | あなたが本会に入会したのは何時ですか。どちらか1つ選んでください。 ①学生時代(26.1) ②卒業後(73.9) |
| 問9 〔1102〕 | あなたはどのような動機で入会されましたか。1つ選んで下さい。 ①会員になることに誇りを感じて(3.9) ②学生時代に教官から勧められて(18.8) ③就職後先輩または上司に勧められて(25.9) ④論文投稿のため(4.9) ⑤講演大会発表のため(22.1) ⑥協会活動に参加するため(6.3) ⑦会員の特典があるから(6.8) ⑧その他(11.4) |
| 問10 〔1065〕 | あなたは会員の特典をどのような時にうけられましたか。次の項目から幾つでも該当するものを選んで下さい。 ①論文の投稿(35.3) ②講演大会での発表(60.0) ③講演会、講習会、セミナー等への参加(64.6) ④刊行物の会員価格での購入(65.8) ⑤鉄鋼技術情報センターでの図書閲覧ならびに文献検索サービス(9.8) ⑥受賞(9.3) ⑦研究費または研究助成金の受領(1.7) ⑧国際行事への参加(8.1) ⑨支部行事(講演会、見学会、研究会等)への参加(34.8) ⑩本会の推薦により他学協会等からの受賞、奨励金等の受領(1.0) ⑪他学協会等と共催(賛)した行事への参加(20.8) |

注1) 各問欄〔〕内の数字は回答者数

2) 項目欄()内数字は各設問ごとの回答数を百分率で表示した

2) 鉄と鋼

会誌「鉄と鋼」は、年間 12 冊 (昭和 56 年は 2756 ページ) と講演概要集 4 冊 (同 1391 ページ) の計 16 冊 (同 4147 ページ) を発行し、協会と会員との間を結ぶ最も重要な役割を果たしています。

「鉄と鋼」の内容は論文記事と会報記事の二つの性格になっています。昨年初めからは会報記事の拡充を図っており、その結果今年は、下記のような構成比率になっています。

「鉄と鋼」 構成とページ数

(昭和 57 年 第 1 号～第 13 号 講演概要集 4 冊を除く 9 冊の平均)

| 論文記事 (58%) | 会報記事 (42%) | | 合計 (100%) |
|---------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------|
| 論文・技術報告 | 技術資料, 展望, 解説, 講義, 特別講演, 委員会報告など | 技術トピックス, 国際会議報告抄録, 寄書, 随想, 会告など | |
| 130 ページ (58%) | 55 ページ (24%) | 40 ページ (18%) | 225 ページ |

「鉄と鋼」への投稿論文は、昭和 56 年に 253 件でしたが、講演大会における講演数の推移から、今後は投稿論文数が増加するものと考えられます。学術研究・現場技術の細分化、専門化が進む中で「鉄と鋼」のあり方について会員のご意向をお伺いいたします。

| | |
|---|---|
| 問11 〔1104〕 | 「鉄と鋼」を毎号どの程度読みますか。1つ選んで下さい。 ①全体に目を通す (10.9) ②専門に関する論文, 会報記事を読む (30.3) ③興味ある論文, 会報記事を読む (55.5) ④会報記事だけ読む (0.8) ⑤殆ど読まない (2.4) |
| 問12 〔1094〕 | 「鉄と鋼」の論文記事と会報記事の構成比について、どれがよいと考えますか。1つ選んで下さい。 (鉄と鋼の頁数は現状のままとして) (論文記事: 会報記事) ①80%: 20% (11.2) ②70%: 30% (20.9) ③60%: 40% (現状) (51.8) ④50%: 50% (13.4) ⑤40%: 60% (2.7) |
| 問13 1-〔1103〕 2-〔1103〕 3-〔1101〕 | 論文について次の問にそれぞれ1つずつ答えて下さい。 (1) 内容 ①理論的すぎる (15.1) ②適当 (79.7) ③現場的すぎる (5.2) (2) 質 ①高い (23.6) ②適当 (73.9) ③低い (2.5) (3) 利用度 ①非常に役に立つ (8.7) ②役に立つ (74.3) ③あまり役に立たない (17.0) |
| 問14 〔1000〕 (拡充/ 縮小) | 会報記事の内容について、次のうち拡充を希望するものを2項目、また縮小すべきとお考えのもの2項目を選んで下さい。 ①技術資料 (51.5/2.3) ②展望 (19.6/4.1) ③解説 (40.1/2.8) ④講義 (20.4/8.4) ⑤特別講演 (11.5/6.5) ⑥委員会等報告 (研究成果報告) (4.6/18.1) ⑦誌上討論 (5.6/18.2) ⑧技術トピックス (25.6/1.8) ⑨国際会議報告 (4.2/16.6) ⑩抄録 (5.6/16.2) ⑪寄書 (0.7/31.0) ⑫随想・海外だより (4.5/31.5) ⑬統計 (4.4/21.3) ⑭会告 (0.4/15.6) |
| 問15 〔1099〕 | 「鉄と鋼」の発行形態について 1冊の会誌で専門の異なる会員に満足していただくのは、大変困難なことです。会員に親しまれる「鉄と鋼」の将来の発行形態として、次の3つのケースのうちどれがよいと思えますか。1つ選んで下さい。 ①現状でよい。 (48.3) ②会報 (前記の会報記事) と論文集 (含講演概要集) に分ける。 (13.4) A種会員には会報のみ, B種会員には会報と論文集とし, 年会費は合理的に決める。 ③会報と論文集2種 (例えば講演概要集と同様 1. 製鉄・製鋼・分析, 2. 加工・材料) に分ける。 A種会員には会報のみ, B種会員には会報と論文集いずれか1種, C種会員には会報と論文集2種とし, 年会費は合理的に決める。 (38.3) |

3) 講演大会

春秋に各3日間開催している講演大会は、会員の研究成果発表の場として、活発に運営されております。講演大会の最近の状況は表示の通りで、特に講演数の増加が著しく、会場の確保に苦勞しております。また講演概要集もページ増から、1. 製鉄・製鋼・分析, 2. 加工・材料の2冊に分けて発行しております。これらを含め大会についてご意見を伺います

表 最近における講演数などの推移

| | | 53年 | | 54年 | | 55年 | | 56年 | | 57年 | |
|-----------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 講演件数 | | 春秋 | | 春秋 | | 春秋 | | 春秋 | | 春秋 | |
| | | 424 | 502 | 486 | 561 | 571 | 725 | 624 | 741 | 632 | 844 |
| ポスターセッション | | 27 | — | 28 | — | 27 | — | 23 | — | 31 | — |
| 討論会 | テーマ数 | 5 | 6 | 5 | 5 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | 講演数 | 24 | 34 | 30 | 27 | 31 | 31 | 27 | 28 | 29 | 33 |
| 会場数 | | 11 | 12 | 12 | 13 | 14 | 20 | 15 | 14 | 14 | 19 |

| | |
|-----------------------------|--|
| 問16 〔1104〕 | 講演大会に出席したことがありますか。どちらか1つ選んでください。 ①出席したことがある(87.0) ②出席したことはない(13.0) |
| 問17 〔1102〕 | 講演発表(含共著者)したことがありますか。どちらか1つ選んで下さい。 ①講演したことがある(63.0) ②講演したことはない(37.0) |
| 問18 〔1092〕 | 講演内容について、次のうち1つ選んで下さい。 ①質の高いものが多い(17.0) ②普通のものが多い(62.3) ③質の低いものが多い(11.2) ④わからない(9.5) |
| 問19 〔1094〕 | 大会では各分野毎にトピックテーマを取り上げ、5～6件の討論会を開催しています。 次の間にそれぞれ1つずつ答えて下さい。 (1) 最近取り上げているテーマは ①適当(73.9) ②不適当(3.7) ③わからない(22.4) (2) テーマ件数 ①適当(60.3) ②多すぎる(14.4) ③少なすぎる(8.4) ④わからない(16.9) |
| 問20 1-〔1094〕 2-〔1088〕 | ポスターセッションについて……講演者に長い時間と説明資料をはる場所を、聴講者には聴きたい講演の 選択と時間を夫々与え、十分な討論を行うと同時に個人的な触れあいの場を目的に、ポスターセッション を53年より春のみ設けていますが、広い会場の確保が難点となっています。次の間にそれぞれ1つずつ 答えて下さい。 (1) 開催されていた事を ①知っている(69.5) ②知らなかった(30.5) (2) あり方について ①発展させるべきである(19.9) ②会場が確保できれば現状程度で継続させる(38.4) ③やめた方がいい(8.7) ④わからない(32.9) |
| 問21 〔1094〕 | 同時、同一場所で開催されている日本金属学会の講演大会に出席しますか。1つ選んで下さい。 ①よく出席する(17.3) ②たまに出席する(28.8) ③出席しない(53.9) |
| 問22 〔1092〕 | 講演数の増加に対する今後の対策について、最もよいと思われるものを、1つ選んで下さい。 ①困難を伴うが極力会場数の増加(確保)に努める(47.3) ②会期を延長する(28.1) ③講演時間現行20分(含討論)を短縮する(12.9) ④わからない(11.6) |
| 問23 1-〔1097〕 2-〔1099〕 | 大会に関連して懇親会、ジュニアパーティーが開催されていますが、次の問いにそれぞれ1つずつ答えて 下さい。 (1) 懇親会への出席は ①出席したことがある(20.1) ②出席したことはない(79.9) (2) ジュニアパーティーへの出席は ①出席したことがある。(17.7) ②出席したことはない(82.3) |

2. アンケート結果の考察

1) あなたは

問2会員の所属支部ならびに問6の年齢構成の回答比率は現在の会員全体の分布と同じ比率であった。問3最終出身学科は冶金金属系が圧倒的に多い。問4職務では研究部門が最も多く管理・その他部門、現場部門の順となっている。問6年代別では第一線で活躍している31～40才が1/3を占めている。問7他学会への入会状況につ

いては、本会のみ単独が40.3%を示し、他学協会への入会では日本金属学会が多い。⑥その他の学協会入会が34.7%あり、鉄鋼に関連する学術・技術の分野が多岐に亘っていることを示している。

会員の入会は卒業後に多く、動機は就職後上司に勧められたものが多く、講演大会発表のためが続き、入会后うけた会員特典として講演会・講習会・セミナー出席、

刊行物の購入、講演大会での発表が挙げられている。

2) 鉄と鋼

鉄と鋼の専門または興味ある論文・記事が85%を越す会員に読まれている。論文類と会報類の記事構成比は51.8%が現状でよいとしている。論文の内容、質はともに適当、利用度は役に立つが大勢である。会報類の記事では技術資料、解説、講義、展望、技術トピックス等に拡充の希望があつた。

問15鉄と鋼の発行形態では①現状維持 48.3%であるが、②会報+論文集 13.4%、③会報+論文集 2種 38.3%と方法は別として 51.7%が分冊の志向を示している。これを問4職務別と、問6年令別の層別に絞つてみるとまず職務別では管理・その他部門が①現状維持 55.5%であるのに対し、現場部門(②+③) 54.9%、研究部門(同) 57%、教職部門(同) 64%となつており、この3部門は分冊型である。また年代別では現状維持が41~50才が49.7%、51才以上が62%であるのに対して、30才以下(②+③)は60%、31~40才は(同) 57.8%が分冊型となつている。若年層に分冊志向が多くあるのに対し、41才以上では管理・その他担当職務の関係から現状維持の比率が高いように思われる。

3) 講演大会

講演大会の出席経験は87.0%の多くを数え、講演発表の有無は63.0%とほぼ2/3である。これを問4-①現場部門についてのみ絞つて見ると大会出席81.2%、講演発表63.1%となつている。討論会では取上げているテーマならびに件数とも適当としている。ポスターセッションは会場が確保出来れば継続(38.4%)、発展(19.9%)の希望が高い。

講演数の増加対策としては会場の確保 47.3%、会期の延長 28.1%と前向の対処が望まれている。

3. 寄せられた意見

本アンケートでは112名の会員から種々ご意見が寄せられたが、主要なものを列挙すれば次の通りである。

1) 事業全般について

(1) 高校生の金属・冶金分野に対する人気の低下、大

学金属専攻者の質の低下は、将来鉄鋼業界に深刻な影響を及ぼすのではないかと。協会として何かPR的な方法は考えられないか。

(2) 事業内容が技術寄りのきらいがある。学術面拡充の検討を望む。

(3) 研究者、技術者の励みになるとともに将来の日本鉄鋼業に裨益するための若年層を対象とした海外との交流促進の企画を立てる。

(4) 支部活動の活発化を図る。講演会、その他の集会などの内容の充実。

2) 「鉄と鋼」について

(1) 「鉄と鋼」を分冊にするのはよいが、他学会に見られるような論文集と会報には疑問がある。分冊の仕方に十分な配慮が必要。

(2) 年間の掲載論文数を増やし会費を値上げしたらどうか、あるいは1論文のページ数を増やし投稿料を徴収したらどうか。

(3) 専門外の論文・記事が多く保存上に問題があるので、専門毎に分冊にしてはどうか。例: Metallurgical Transaction A, Bのごとく。

(4) 必要な論文などが抽出できるような製本が出来ないか。

3) 講演大会について

(1) 講演概要集のページを増やし、内容が理解出来るように充実させ、文献引用が出来るようにして欲しい。

(2) 講演発表の際、一般にスライド数が多すぎ注意が散漫となるので必要不可欠なものに絞るとか概要集のページ数を増やし、図・写真を載せるとかして欲しい。

(3) 発表の増加は望ましいが質の低下を避けるための検討が必要。例えば提出元でのスクリーニングなど。

(4) 発表時間は現状を維持し、出来れば討論のために5~10分時間を延長してほしい。あるいは討論時間を活発にするため、講演時間を減らしてもよい。

(5) ポスターセッションは説明者を一方的に質問詰める風潮があるので、質問者も名乗りフェアでオープンな討論、意見交換の場となるよう配慮を望む

正 誤 表

「鉄と鋼」68 (1982) 1, pp. 90~97

「薄い液体金属浴における浸漬ガスジェットの観察」

小沢 泰久・森 一美

| ページ | 行 目 | 誤 | 正 |
|-----|-------|------------------|------------------|
| 96 | 右(1)式 | $P_0/P_s \geq 2$ | $P_0/P_s \leq 2$ |
| 96 | 右(2)式 | $P_0/P_s \leq 2$ | $P_0/P_s \geq 2$ |

計算は正しい式で行つていきますので、結果に変更はありません。